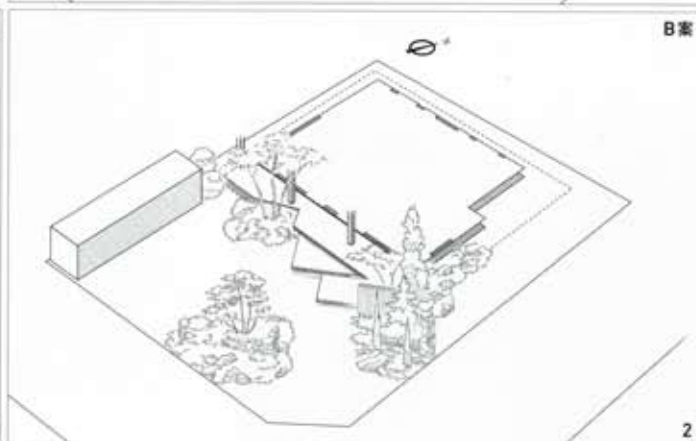
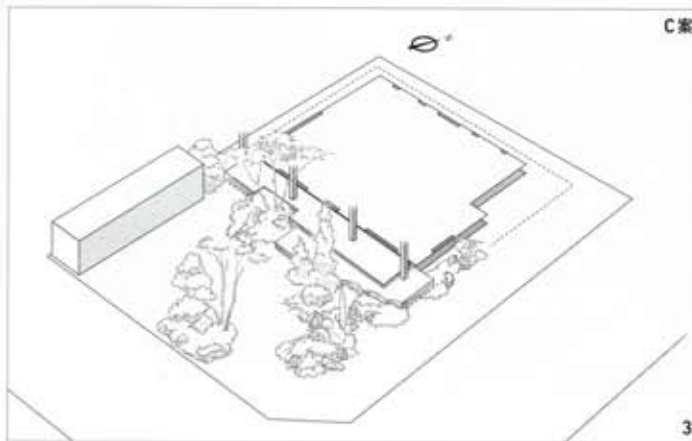
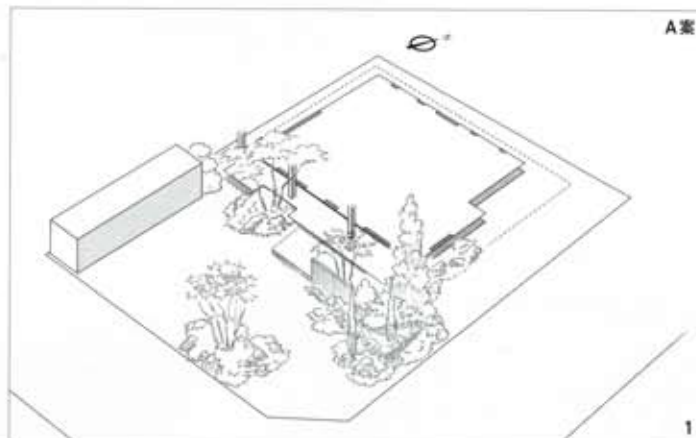


07 作庭に役立つ  
素材と技術  
CAD派・手描き派  
プレゼンテーションの極意

比較検討がしやすい  
簡略化したパースによる初期提案

国藤さんがクライアントに最初に庭を提案する時は、この3つの図面のように、同じ角度から見たアイソメトリック図のプラン3案を用意する。条件を描いた上で、植栽の位置やデッキの形状を変えたプランを提示することで差異が明確になる。「図面を見慣れていない一般の人に、平面図を見せてもイメージがわきにくい。立体的なアイソメトリック図なら、一般の人でも空間をとらえやすく、イメージが掴みやすいと好評です」。1. A案は植栽を点在させたパターン。2. B案はデッキの形状に変化をつけたパターン。3. C案は、植栽に遠近感をつけて、家の中から見た時に森の中のような雰囲気をつくるパターン。



手描き派  
プレゼンツール

国藤 稔  
庭のクニフジ

手描き+Adobe Illustrator / Adobe

イメージを共有して  
想像力をかき立てる手描き図面

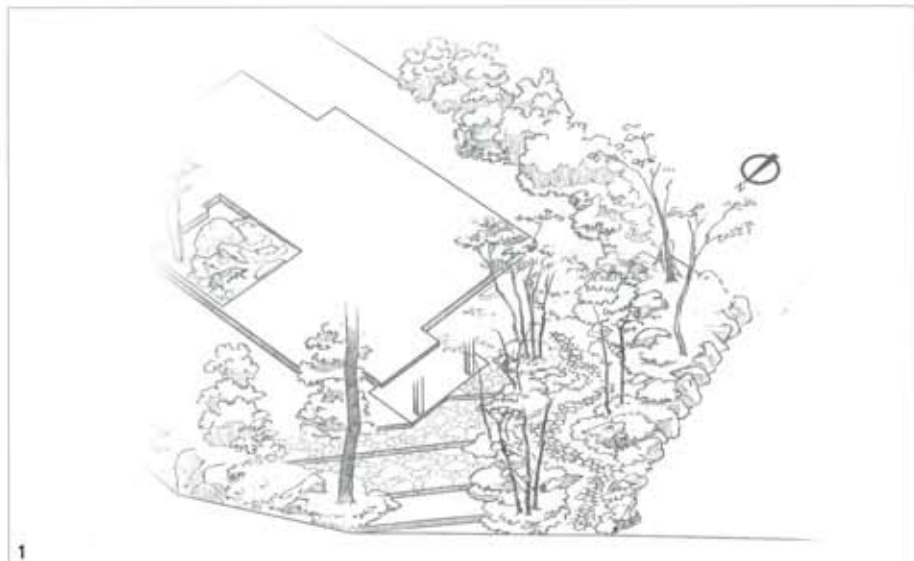
長野県松本市を中心とした中信エリアで庭づくりをしています。私は東京出身ですが、田舎暮らしに憧れて33歳の時に長野県安曇野市に移住しました。独立した時に、自己流で図面とスケッチを描くようになり、現在に至ります。プレゼンテーションは、ずっと手描きのスケッチをベースに行っています。

情報を簡略化して  
比較検討しやすい

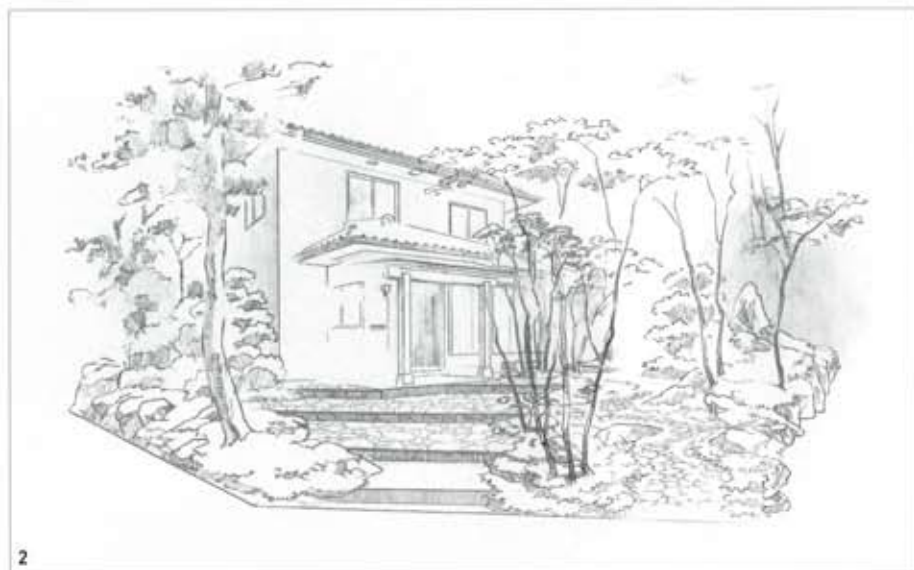
手描きスケッチでプレゼンテーションを行うのは、単純に絵を描くことが自分にとって自然な表現手法だからです。高校はデザイン科に在籍し、大学と大学院ではインダストリアルデザインを専攻して、主に子どもの遊具をデザインしていました。ですから、どちらかというと私が描くパースは、絵画的というよりもインダストリアルデザインの設計図に近いと思います。遊具の完成予想図のレンダリングを描いていた時の延長で、庭のスケッチを描いている感覚があります。

クライアントの要望を聞いて初期提案を行うのですが、最初は大体3案を用意します。初期提案では、まず平面図を描き、次に平面図を写真撮影して出力し、その上にトレーシングペーパーを載せ、平面図を元にアイソメトリック図を立ち上げます。これをパソコンに取り込み、[Adobe Illustrator]でパースを

森に囲まれた自然豊かな土地に建つ住宅。周囲の景観と庭の境目が分らなくなるような自然な庭を目指した。1. アイソメトリック図による初期提案。玄関アプローチは乱尺の石張りの階段でアクセントをつけ、前庭は流れに見立てた小径を設けた。園師さんは、植栽はあえて詳細に描きこまずにぼかし、階段と小径を強調して描いてイメージを伝えた。2. 初期提案で選ばれた図面を元に描いたパース。初期提案ではアイソメトリック図で簡略化した手描き図面を描いているが、契約後はさらに詳細なイメージをクライアントに伝えるために、二点透視図による手描きのパースによってプレゼンテーションを行う。3. 完成した庭。2のパースと見比べても再現性が高いことが分かる。4. 流れに見立てた前庭の蛇行する小径。



1



2



## ポイントを強調する 手描きならではのぼかし表現

して、その出力紙にまたトレーシングペーパーを重ねて、垂直に植栽やパーツを描き、提案図面に仕上げます。必要な要素ごとにいくつかのレイヤーを用意しておけば、書き直しの手間もかかりませんが、パソコンで合成がしやすいため、この方法でプランをつくっています。

### モノクロで想像を促す

アプローチ、テラス、露地など、ひとつの敷地で複数の場所に庭づくりを行う場合は、建物の部分を白抜きにして、庭だけを描くこともあります。庭が強調された図面になるため、複数ある提案図面の違いを比較しやすくなります。こうした簡略化した図面はインダストリアルデザインのレンダリングに近いですね。

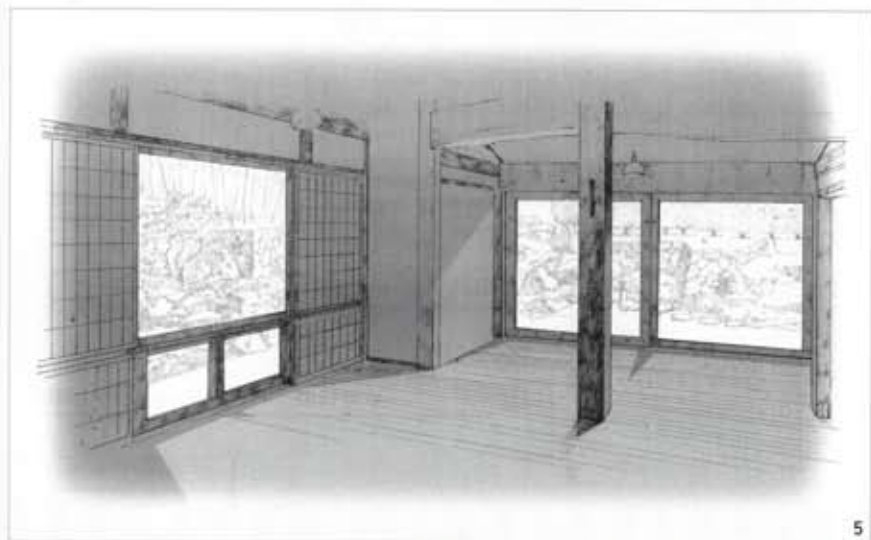
提案が選ばれ、庭づくりを正式に請け負うことになると、次に手描きで詳細な二点透視図を描き、クライアントにより具体的なイメージを掴んでもらいます。濃淡の異なる鉛筆を何種類も使って、調子を重ねながら明るさや遠近感を表現します。私は手描きの方が、CGよりも立体感や奥行きを表現しやすいように感じています。パースはあえて着色しません。モノクロの絵は想像力を働かせて、思い思いに色を感じさせる効果があります。そして、完成した時に初めて庭の色彩を目にすることで、より感動を与えることができるのです。

(談)

住宅の玄関アプローチ、リビングと和室に面した主庭をひとつの図面で表したプラン。クライアントからは、和風と洋風、ふたつの要素が調和する庭が求められた。1. 建物を白抜きにすると、庭が強調されて見えるため、イメージがわかりやすい。2. 第一期工事でつくった和風の庭。杖木を連ねて立てることによって、和風の庭と、今後つくる洋風の庭のつながりに連続性を持たせた。3. 玄関アプローチには、ヤマボウシをシンボルツリーとして植えた。4. シンボルツリーの周囲は敷石を張って幾何学的な文様を描き、アクセントをつけた。



和と洋の調和を  
立体的なパースで検証する



鉛筆の濃淡で明るさを表現  
リアルなイメージを伝える

雪深い北陸の古民家を長野・池田町に移築。住宅の雰囲気を含む庭が求められた。移築先は山を切り開いた場所にあり、山の斜面が迫っていることもあって、園藤さんは土留めを兼ねた石垣をつくることを提案した。「石垣は昔からこの場所に眠っていた遺跡のような雰囲気を出したいと考えて、少し傾斜をつけて石積を行いました」。5. 家の中から見た時の庭を描いたパース。情景を取り入れたい時やインテリアの雰囲気と庭の調和を図りたい時は、室内から見た庭のパースも描く。柔らかい鉛筆を使って濃い色で室内を薄暗く表現し、庭は硬い鉛筆で薄くやさしいタッチで石垣や植栽を描いて、明るさを表現。リアリティのあるパースでイメージを伝えた。6. 石垣工事の様子。7. 完成した庭。石垣の間には山野草を植えて、山城の跡のような雰囲気にした。



園藤 稔(くにふじみのる)

1962年東京生まれ。1981年本郷高等学校デザイン科卒業。1993年東京藝術大学大学院機器デザイン専攻修了。1995年、東京から長野県安曇野市に移住。同年アルプス造園勤務。2003年独立、庭のクニフジ設立。工業デザインの世界で培った設計技術を活かした視覚効果を利用し、庭の空間演出を行う。一級造園技能士。2003年長野県技能競技会造園工事銀賞受賞。

手描き派

